ヘナタリ　*Pirenella nipponica* Ozawa et Reid in Reid et Ozawa

【選定理由】

本種は、内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺や、それより下部の泥干潟の表面に生息する。県内ではヨシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる（木村･木村, 1999）。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

幡豆郡鳥羽干潟, 2001 年 7 月 15 日, 木村昭一採集

【形　態】

殻長約 30 mm の塔型で、よく成長した個体の殻口は肥厚し、外唇は下部が水管部へのびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村･木村（1999）を含めて現在約 10 カ所である。生息場所では群生し、個体数は多い。特に汐川干潟では大きな個体群が残されている。庄内川河口では、フトヘナタリは回復傾向が認められるが、本種の古い死殻は採集されるものの、生息は確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド・西太平洋、国内では房総・北長門海岸～九州、南西諸島に分布する（福田・木村, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では、上述したようなヨシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地や泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

葉山しおさい博物館（2001）では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ　貝類, 104pp.
木村昭一･木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44–56.
福田　宏・木村昭一, 2012. ヘナタリ, p. 29. in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

（木村昭一）